

弘教寺



今日を生きて

弘教寺住職 中山英昭

国内でも新型コロナウイルスの感染が広がって一年が過ぎました。身近な地域でも感染者の情報の人づてに聞きますとより一層緊張の日々です。高齢者の門徒さんでは用事の無い限り一歩も外に出ないと話される方もおります。相当なストレスになるのではないかと思います。

「明けぬ夜はない」という言葉があります。が、高齢の方にとっての一年、一ヶ月、一日は若い方々とは違うように思います。限られた人生の一年であり、一ヶ月、一日なのです。

♪明日がある 明日がある 明日があるさ♪の歌がありますが、明日の見えない中で一刻過ぎて行ってしまう混乱やあせりの日々を過ごしている高齢者の方が多いのではないのでしょうか。

先日地元の上毛新聞に「夜回り先生」で知られている水谷修先生の記事が載っていました。

水谷先生は夜間の定時制高校の教師時代に青少年の補導や相談相手となるため毎晩繁華街の夜回りを始められました。受けた相談50万件、子供さんからの命のメールは1000万通に及んでいるといわれています。

第48号

発行所

〒370-0131 伊勢崎市境米岡二七九-二 浄土真宗本願寺派弘教寺 寺報編集部 電話 0二七0(七四)0五七三



寺のQR

水谷先生の座右の銘というべき言葉が、「而今(にこん)」という道元禅師の言葉だそうです。道元禅師の言葉に出会うまでは「冬来たりなば春遠からじ」として、悩み苦しむ少女や少年に「今がたらくても必ず幸せになるから、明日が来るから、頑張ろう」と言ってきた自分自身にナンセンスを感じたというのです。「…幸せって、明日や未来にしかないと思っていたけれど、今に幸せはあるし、探していく中でもっと大きな幸せにたどり着くのではないか。」とも話されております。

「而今」という言葉は道元禅師の書かれた『正法眼蔵』の中の言葉です。

その意味は「学道の人は、後日を待つて行道せんと思ふことなかれ。只、今日今時を過ごさずして、日日時時を励むべき也」です。

仏教の大切な教えです。お釈迦様も「過去を追うな 明日を見るな 今を生きよ」と言われております。親鸞聖人も、京都の青蓮寺で得度される時、「明日ありと思う心の仇桜夜半に嵐の吹かぬものは」と詠まれております。蓮如上人も「仏教におきては明日あるまじく候」と述べられております。

コロナ禍の中で、明日や将来のことを願ひ

期待することよりも、今この時この一日をどう大切にしていけるかが大事になると思います。明日や未来に期待することも大切ですが今日という大事な一日をどう過ごしていくか、どう充実させていくかが必要に思います。

先の道元禅師の話になりますが、中国留学時代に真夏の炎天下、典座(料理僧)の老僧が汗だくになりキノコを干している姿に出会ったそうです。「あなたがそのことをしなくても、若い僧にやらせたらどうですか」と話すと「他は是我にあらざ」答えられ、さらに「どうしてこの炎天下になさるのですか」と尋ねると「さらにいずれの場合も時をか待たんと答えられたといえます。来るか来ないかの未来を待つよりも、今出来る事をしてゆくことを私たちに教えてくれるエピソードであると思います。

コロナ禍でいろいろと制約される日常ですが、この私が今何ができるか、何をしてみたらいいかを探し求め、コロナ禍だからこそ出来る事を見いだせたら、一日が違ったものになるのではないのでしょうか。『正信偈』を書き写してみるとか、『正信偈』をお勤めをしてみ



るとか、やや難解な『阿弥陀経』のお勤めにチャレンジしてみるとか、自分が出来る範囲でできる事を今日一日が無駄にならないような大切な一日にしていきたいでしょう。

合掌

みんなで広げよう！シトラスリボンプロジェクト



Citrus Ribbon
PROJECT

シトラスリボンプロジェクトとは、誰もが新型コロナウイルス感染症に感染するリスクがあるなか、たとえ感染しても地域のなかで笑顔の暮らしを取り戻せることの大切さを伝え、感染された方や医療従事者が、それぞれの暮らしの場所で「ただいま」「おかえり」と受け入れられる雰囲気をつくり、思いやりがあり暮らしやすい社会を目指す、愛媛県の有志グループ「ちょびっと19+」が進めるプロジェクトです。

「シトラスリボン」のそれぞれの輪は、「地域」「家庭」「職場（または学校）」を表現しています。

*ネット検索：シトラスリボンプロジェクト from ehime

誰にも感染のリスクがあり、私たちは、感染しないよう感染させないように対策をして来たこの一年、石鹼での手洗いやマスク生活は習慣化し、外出自粛の日々を過ごしてきました。そして、今この時も、使命感を持って最前線で働く医療や介護など様々な職種の人々に支えられて日常生活を維持しています。

婦人会では差別や偏見の気持ちを少しでも減らして、お互い様の心でいたわりあい支え合えたらどんなにいいかと話し合い、このプロジェクトに賛同して、

**感染した人へ いたわりの心で「おだいじに」、
暮らしを支えてくれるひとたちへ
感謝とエールの心で「ありがとう」と、**

リボンを通して私たちの気持ちを届けたいと思います。



お寺でシトラスリボンの材料と作り方の説明書を配布しています。作ってみたい方、プロジェクトに参加したい方は、弘教寺までお問い合わせください。

1月中旬から婦会有志でリボン作りを始め、まずは、自分たちで身に着けたりバッグにぶら下げたりし、婦人会例会でも自分で作ったり知人に広めたりしましょうと呼びかけました。

2月には、地域のお年寄りが多くお世話になっている介護施設「いこいの里」へ120個のリボンをお持ちしました。感染防止の気遣いの中で入所者のケアに尽くされている職員の皆さんに心からの「感謝とエール」をお届けしました。

また、来寺される方や身近な医院、医療関係者の方へも差し上げています。

外出自粛が解除された後は、境図書館に置かせてもらい、シトラスリボンプロジェクトの輪をさらに広めていく予定です。(坊守)

弘教寺は、シトラスリボンプロジェクトに賛同しています

元日会法要

元日の法要を「元旦会(がんたんえ)」と言います。弘教寺では昭和四十八年先代住職の時に始まりましたから、50年お勤めしております。年の初めに門信徒とともにお勤めし、年頭の挨拶を交わすことは気持ちのよいものです。

除夜の鐘をつき終わって、新年明け早々に元旦会のお勤めをする寺院もあるようですが、私どもの寺では朝七時から正信偈六首引きをお勤めし、住職の法話を聴聞し、その後恒例の甘酒の接待があります。坊守三代にわたり代々受け継いだ麴を使った甘酒です。擦ったシヨウガが入り、温かみと香りが加わります。甘酒は年賀の挨拶に来られた門信徒の皆さまにもふるまわれます。

寺にとつては元旦早々のことで大変ですが、寒い中皆さまお出かけになることはより大変なことと頭が下がります。

是非皆さま元日には弘教寺の元旦会法要にご参拝ください。

合掌(住職)



水曜会報告(二) 『七高僧の教え』

七高僧の教えは、龍樹菩薩から始まります。菩薩はお釈迦さまが亡くなられた五百年後に、南インドで身分制度の最高位のバラモンの家に生まれます。ある事件で欲望にふけることは、かえって苦を招くことに気づき出家をし、阿弥陀仏の本願を広められ仏教の大衆化をされました。

次は菩薩の教えの一部です。

【有無の見】人間の迷いとは、ものごとを有とか無とか二つに分けて、どちらか一方に執着しその結果自分で自分の苦を招いているのだと考えられ、真実のものの見方は有無にとらわれずに見ることだと説かれました。

【難易二道】仏教に難行道と易行道とがあり、阿弥陀仏の本願に乗ずる道は、易行道であると教えた方で一番の功績です。難行によって救われることの困難さ、人間の力の弱さ無力さを痛切に感じ、人間のはからいをこえた仏のはからいにおまかせすることと教えてます。

【信心正因、称名報恩】浄土真宗の教えの基本であると言われています。信心が浄土に往生する正しい因であり、称名(南無阿弥陀仏)は報恩感謝の心で称えるものだといっています。本願念仏の教えを親鸞聖人は菩薩から下さったものと讃えております。

このような菩薩の教えは、親鸞聖人に大きな影響を与えて「正信偈」に多くの偈で讃えられています。

合掌(橋本勝)

水曜会報告(二) 『お経ってなに?』

お経は、お釈迦さまが各地を旅して困っている人や悩んでいる人にやさしく「さとり」を説いたお話がもとになっています。

伝説では、弟子のアーナンダがお釈迦さまの話をすべて記憶していて、それを五百人の弟子に口伝しました。弟子はさらに弟子へと口伝し、お釈迦さまの死後、三、四百年たった紀元前後ごろに、文字を書き記す文化が定着して、当時の弟子たちが記憶にあつた教えをヤシの葉や木の葉に記録しました。これがお経の起源です。

本来は短い言葉でしたが次第に弟子たちにより複雑で高尚な大小あわせて五千本以上のお経として完成しました。これが『釈迦の仏教(原始仏教)』といわれるものです。

その後インドでは、自己の人格を完成し、自己が救われ幸せになる『釈迦の仏教』とは異なる、利他の教えで、他者を救済する『大乘仏教』が生まれました。なお、現在の日本の宗派はすべて『大乘仏教』です。

お経(経典・仏典)は、日本や中国では仏教聖典全体をさすことが多いようです。

仏教聖典は、お釈迦さまの教えを伝える『経』と、仏教徒の行動規範を示す『律』、経と律を解説した『論』の三種で構成されています。

(山本勇三)

参考文献 佐々木閑著『ブツタ最期のことば』

山折哲雄編著『仏教用語の基礎知識』

真悟の京都日記(12)

京都に来て四年が過ぎ去ろうとしています。龍谷大学を卒業することが決定した今、この一年間の中で感じられたことをお話ししていこうと思います。

コロナの影響によりほとんど大学に行くことのない一年間、外出すらも控えることが求められ、自身のやりたかったこと、やろうと思っていたこと、引きこもる日々で、鬱屈とした日々を過ごしていたように感じています。

そんな中でも華道に書道、最近始めた草野球や早朝に出るサイクリングなど、今まで通りとはいかなくても継続できることも多くありました。大学でできた友達とも、頻度は少ないながらも小人数で集まることもありました。夏には住職に連れられて、親鸞聖人の関東の御旧跡をいくつか回り、足跡を感じることができました。

この一年で、私は「あたりまえ」の有り難さを感じました。できることが世界レベルで制限されることは、私が生まれてから経験したことはありません。これまであたりまえに外出し、集まっていたのはさまざまに恵まれていたからなのだと思います。そんな有り難い縁を「あたりまえ」と考えていた私はやはり、迷いの世界に生きる衆生なんだなあと思ひました。



卒業の日

「あたりまえ」と考えていた私はやはり、迷いの世界に生きる衆生なんだなあと思ひました。(中山真悟)

群馬歴史散歩みち(二) 大室公園と周辺



赤城南麓の中央にある大室公園には群馬観光の一環として2020年2月に放映がされた、女優吉永小百合さんが出演するコマーシャル「大人の休日倶楽部・古墳王国群馬編」が話題となり、注目を集めたスポットがあります。

吉永さんが入った石室は「大室古墳群」の「前二子古墳」です。水生生物とのふれあいの場所とした「親水ゾーン」、春には桜が咲き、ほのかな香りが漂い、家族連れで賑わいます。



石室

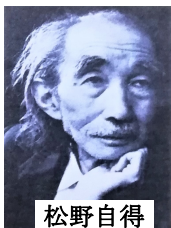
大室公園を南に5分下ったところに流魂の俳人松野自得のお寺『最善寺』があります。



最善寺

1890(明治23)年群馬県館林で生まれ、荒砥村(現前橋市)の最善寺を拠点にして、全国を巡る旅をつづけながら僧侶、日本画家、書家、そして俳人として活躍していらっしゃいます。高浜虚子に師事して1975(昭和50)年85歳で亡く

なられるまで旺盛に活躍されました。お寺の境内には味わい深い数多くの仏様の石像が点在しています。



松野自得

是非訪れてみて下さい。(西正裕)

※編集後記※

寺の『つつじ寺だより』の編集や発送をお手伝いしています。▼現役時代、工場に勤務していたころは秒単位の工数計算を基準とした生産高、営業では売れて『なんぼ』のサラリーマン生活をしていました。▼今は丁寧をモットーに編集会議では皆様から出稿された原稿を誤字脱字がないか校正し、発送では『受け取った方々の笑顔』を浮かべながら刷り上がった新聞を丁寧に一枚ずつ折り畳んでいます。▼今は与えられた時間空間があることを仏様に感謝しています。(西正裕)

◆行事予定◆ 令和3年 4月～ 令和3年 7月

月別	弘教寺の行事予定		教区・群馬組の行事予定	
4月	中旬	婦人会例会		
	中旬			
	29日(木)	永代経法要		
5月	中旬	壮年会総会		組会
	中旬	婦人会総会	11日	組仏婦運営委員会
6月	中旬	婦人会例会	3日	組婦人会総会 北ブロック委員会
7月	初旬	壮年会例会		
	中旬	婦人会例会		